

事業所別総括

□養護老人ホーム小樽育成院

当施設は、「セーフティーネット」としての措置施設であるとともに、介護保険制度の特定施設入居者生活介護の指定を受け、入居者の重度化の増高に対応できる事業を行ってきています。

ここ数年は、入居者の重度化が進み、職員の負担が重くなっていることから特定施設部門を変更することで職員体制の強化を図るとともに、収入を確保をしてきました。今後とも重度化に対応できるよう、職場環境への整備と人材確保を前年度に引き続き進めてきました。

以下、事業計画における主な項目について報告します。

1) 経営基盤の安定

稼働面では、措置入所の稼働率は98%の目標に対して96.8%と前年度と同じく1.2ポイント下回りました。この要因としては、市における待機者に要介護の方が多い一方で、自立度の高い方は保険的に申込みされていることなどに加え、施設の介護フロアに空きがないことで待機者の受入れが難しい状況が続いていることによります。

一方、特定施設部門では、1日平均利用者数は71.2人と昨年度の46.5人に比べ24.7人の増加となりました。この要因は、平成28年10月に一般型に変更して平年化されたことや要介護者の増加に努めたことによるものです。

結果、収入面では措置費収入が減少しましたが、介護保険収入の増加により活動収益の合計で昨年と比べて11.4%と大きな増加となりました。

2) 人材の確保

平成29年度は、高卒の新規採用者1名、中途採用者10人の合計16人を配置し、ほぼ必要人員を確保することができました。

その一方、離職者は9人で、うち介護職員は6人となっています。当施設の離職率は13%で昨年の10.8%より2.2%悪化し、同業種の離職率16.7%(平成28年度介護労働実態調査)よりは下回っていますが、介護職員の採用が難しい中、前年度に引き続き衛生委員会機能やストレスチェック結果を踏まえた対応策等、職場の環境改善を図るとともに、職場説明会等への参加等を通して人材確保に努めたところです。

3) 事業の運営

事業運営については、介護保険制度の指定特定施設部門が平年化したことで介護報酬収入が増加した一方、支出も看護職員等の増員で人件費が増えました。また、次年度に老朽化したエレベーターの改修や屋上防水工事に着手するために修繕積立金を行ったところがあります。

平成29年度は、新たにハーモニカーセラピーのボランティアの方の参加があり、認知症のある方を対象に毎月1回活動しています。そのほか衛生委員会の提言で腰痛対策としてモデル的に腰痛軽減のための用具等のデモンストレーションを開催し、働きやすい職場環境の改善に努めるとともに、入居者へのサービス向上や職員の資質向上に寄与したものと考えています。